

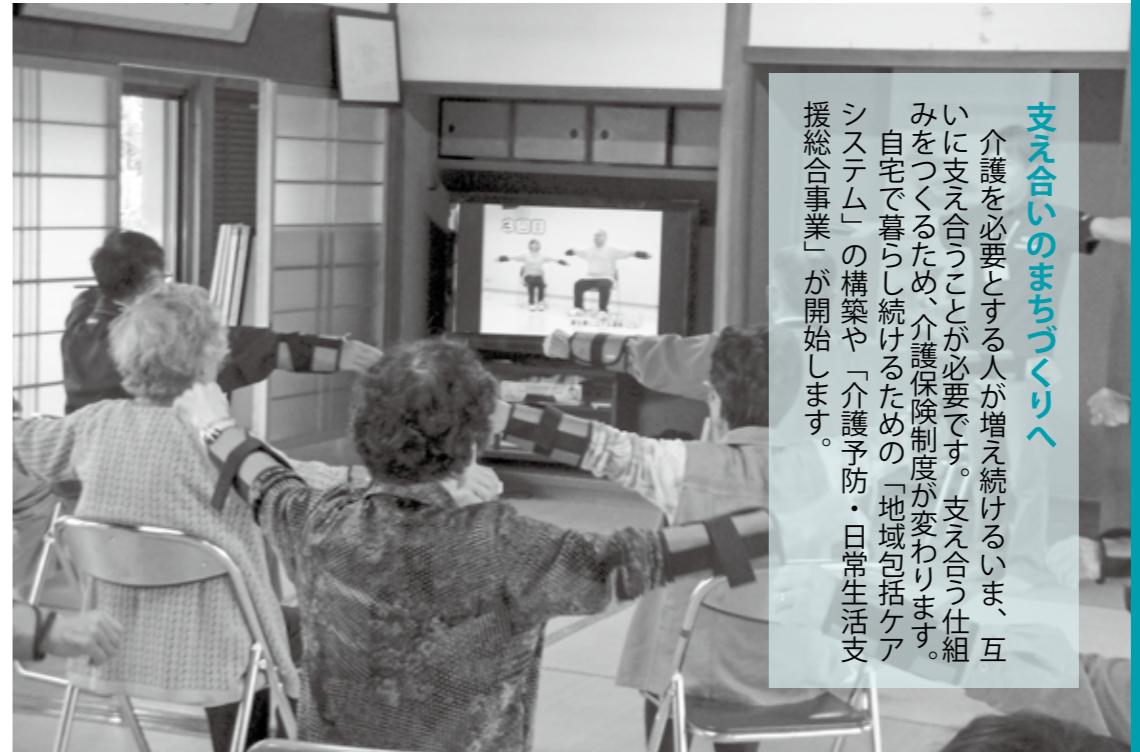
# 介護保険制度が改正されます

問 介護保険課（春日庁舎内）☎ 74-0368

## 住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために

### 支え合いのまちづくりへ 新たな「担い手」と「システム」が支える自分らしい暮らし

介護を必要とする人が増え続けるいま、互いに支え合うことが必要です。支え合う仕組みをつくるため、介護保険制度が変わります。自宅で暮らし続けるための「地域包括ケアシステム」の構築や「介護予防・日常生活支援総合事業」が開始します。



### 地域でつくる支え合いの仕組みづくり

平成29年度から、「介護予防・日常生活支援総合事業」がはじまり、要支援1・2の方のサービスが変わります。この事業は、地域で支え合う仕組みをつくり、住民主体で生活支援や介護予防を行う取り組みです。この事業を後押しするため、平成28年度から社会福祉協議会に3名の地域支え合い推進員を配置します。各小学校区を単位に、地域に合った組みづくりを手伝えます。



地域支えあい推進員に任命された庄司滉祐さん、山本奈津希さん、山内敬太さん（写真左から順）

さらに、実際に高齢者の日常生活を支える生活支援サポーターを養成します。

#### ■ 地域支えあい推進員の役割とは

①日常生活で支援してほしいことなど、生活に関する要望を集める  
②生活を援助する担い手（生活支援サポーター）を集め、育成する  
③地域の人々が話し合ったり、活動したりする場をつくる  
④地域で高齢者を支える仕組みづくりを推進する

新たな取り組みを開始  
くいきいき百歳体操

日々の運動で元気な身体づくりをめざすため、専門のボランティアのサポートを受けながら元気な身体づくりをしています。

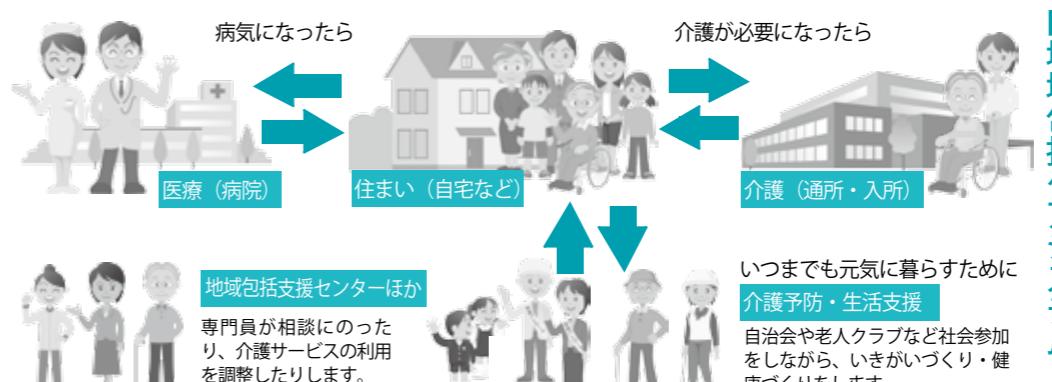


慣れれば自分たちだけで体操に挑戦

### 地域包括ケアシステムの構築

「年齢を重ねても、住み慣れた地域で自分らしく暮らしたい」これは、多くの高齢者の願いです。国が実施した一人暮らし高齢者に関する意識調査（平成26年度）では、「どこで介護を受けたいですか」との問い合わせに「どこで介護を受けたいです」が最も多く、約67%が自宅で介護を受けたいと望んでいます。歩行に支障があり、介護が必要になつても、27%が自宅で介護を受けることを望んでいます。

高齢化が進み、介護が必要な人が増加しています。住み慣れた地域で暮らし続けるには、生活を支える新たな「担い手」と「システム」が必要です。このシステムは、配食サービスなどの日常を支援する「地域包括ケアシステム」を構築します。このシステムは、配食サービスなどを通じて、地域やボランティアなど新たな「担い手」の力で充実させられる地域をめざすためのものです。また、いつまでも元気に暮らせるよう、生きがいづくり・健康づくりを応援するシステムです。



### 地域包括ケアシステム